



切り拓けたくましく心ゆたかに

令和5年6月1日
第1号

小中一貫教育企画部会が開かれました！

児童生徒の良さを伸ばしたり、課題を克服したりするための大きな手だてとしてスタートした小中一貫教育も、今年度で6年目を迎えました。先月12日（金）には、今年度の活動方針を検討・共有するため、道徳教育、生徒指導・特別支援、研修、防災学習の4つの推進部で企画部会が開かれました。各部会で検討・決定された内容について、紹介していきます。

道徳教育推進部会

道徳教育推進部会では、令和3年度から「自分事として捉える」をテーマに道徳の授業づくりを推進してきました。この取り組みの成果として、道徳の授業の中だけではなく、全校道徳や全校スピーチのような場面でも、自分の思いや考えを発信することができる児童生徒が増えていきました。

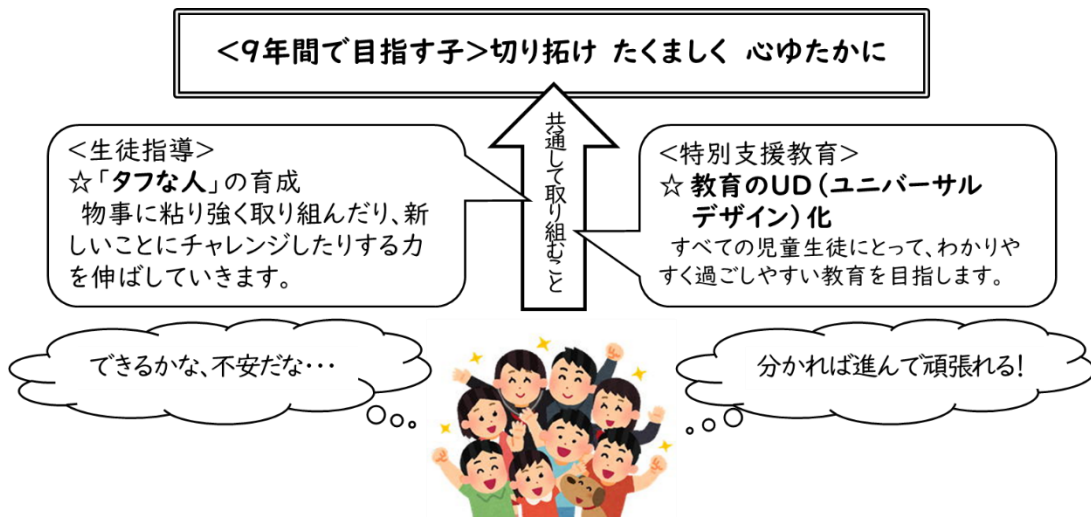
一方で自分事と捉えて、考え、議論することで得た学びが日常の行動に生きていないという課題も見えてきました。これは、道徳の授業を通して、道徳的実践への心の耕し（=身構え）が十分にできていないということです。

なぜ身構えができないのでしょうか。「自分が〇〇であったら・・・」という発言は、児童生徒が「自分事として捉えている」ように感じられます。しかし、児童生徒は、資料のストーリーや登場人物の性格などから、その後の行動を想像した、つまり、実際は「他人事」であった可能性も捨てきれません。

そのため、令和5年度は、再度「自分事として捉え、議論する授業の実現」を目標に定め、本当の意味で児童生徒たちが「自分事として捉える」ことができるための手だてを模索していきます。夏季休業中に行われる小中一貫研修会では、実現のためのヒントを得られるようにするため、推進部員が実践した授業を紹介し合うことを決めました。しなやかな心をもつ「タフな人」を目指し、道徳の授業の充実に取り組んでいきます。

生徒指導・特別支援教育推進部会

各校で共通する児童生徒のあらわれを共有する中で、9年間で目指す子の実現に向かって足並みをそろえて取り組むことを決めました。



研修推進部会

研修推進部会では、南中グループの授業について研修をしています。

誰もが「学習が分かる」「学習に取り組める」ために、共通のテーマを「どの児童生徒も参加する授業づくり」と設定しました。昨年度の児童生徒のアンケートから「友達と話し合いながら考えることは楽しい」と感じている児童生徒が多くいることが分かりました。そこで、今年度は協働的に学ぶ楽しさを感じている児童生徒の良さを生かして、授業の中で友達と対話することを意図的に位置付けて、表現する力を育てていきます。

具体的な取組としては、学校間で「授業を見合う会」を設定して児童生徒が学び合う様子を参観します。そして、7月に行う夏季研修会で、子どもの良さや課題を情報交換したり、総合的な学習の時間の「探究」について、講師の方から学んだりして、子どもの資質能力を育てるための取組を進めていきます。



防災学習推進部会

防災学習推進部では、「防災学習を通して自助・共助の力を育む」をテーマに各校の情報交換を行いながら、防災教育の推進について考えてきました。この取り組みの成果として、南海トラフ地震警戒情報の発令時や津波発生時等、各校でどのように児童生徒や教員が避難するのか、より具体的に備えるようになりました。

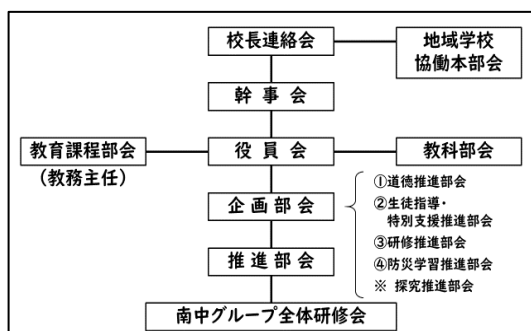
一方で、南中学校区は東西に長く、海岸線から有度山まで高低差もある地域です。また、平地であっても水の貯まりやすい場所とそうでない場所があるなど、地形が入り組んでいます。したがって、小学校区ごとの災害リスクも異なり、防災を自分事と捉えられていない児童（生徒）が多い学校があることや、避難経路の安全性、避難後の動きが見えていなかったという課題も明らかになってきました。

そのため、令和5年度は、防災の視点を南中校区全体に広げ、どのグループ校の児童生徒も自分ごととして防災に取り組むことを目標に定めていきます。夏季休業中に行われる小中一貫研修会では、実現のため、まずは教員自身が南中校区の災害リスクについて知識を深め、児童生徒と避難する経路について、点と点で考えるのではなく、線で考えた防災について話し合うことを決めました。そして、より実践的な防災の授業の充実に取り組んでいきます。

おわりに

各推進部における企画部会での検討・決定された内容をご紹介します。

南中学区小中一貫教育グループでは、「タフな人づくり」を目標に掲げ、「主体的に取り組もうとする人」「自立と自律の心をもった人」「道徳性豊かな人」の育成を目指しています。グループ校の教職員は丸となって、児童生徒の成長に尽力していきます。今後も小中一貫教育へのご理解とご協力をお願いします。



▲南中グループ小中一貫教育組織図

次号は、9月1日(金)に発行予定です。